

かごしま幕末絵巻

～小松帯刀の目線でみた幕末の物語～

— 第6巻 —

新時代への道



鹿児島を訪れた龍馬さん。
霧島で楽しんだようですが……

IJIN MANGA

～龍馬とお龍のハネムーン～



幕末偉人列伝



幕末の英雄 坂本 龍馬

Ryoma Sakamoto

土佐出身の志士。薩摩藩の支援のもと、長崎で貿易などを手がける亀山社中(後の海援隊)を結成。薩摩藩と長州藩を結び、大政奉還の実現へ向けて活動した。龍馬の変名の1つ「西郷伊三郎」は、西郷隆盛を意識したものとも言われている。

坂本龍馬：国立国会図書館

物語の舞台裏



和氣神社

—霧島市—

奈良時代の貴族・和氣清麻呂が流されてこの地に滞在したといわれている。幕末、島津齊彬が清麻呂滞在地の調査を進め、比定地に龍馬夫婦も訪れた。後年、同地に和氣神社が創建された。

〈交通アクセス〉

九州自動車道・溝辺ICより車で約20分
JR日豊本線隼人駅より車で約15分
鹿児島県霧島市牧園町宿窪田3986

〈問い合わせ先〉

和氣神社 TEL0995-77-2885

かごしま幕末絵巻・完

【画：KENRO 本文監修：南九州歴史学会】

強く結びついた薩長のもと 新しい日本が始まる！

坂本龍馬の活躍もあり、薩長同盟で強く結びついた両藩は強く豊かな国づくりに向けて、新しい政治体制を目指します。薩摩の名家老、小松帯刀の目線で振り返る幕末の物語。

〈慶応二年春〉龍馬夫婦の休日

薩長同盟の締結から間もなく、坂本龍馬さんは伏見の寺田屋で幕府の役人に襲われ、ピストルで応戦するも両手を負傷。妻のお龍さんの助けもあり、辛くも伏見の薩摩藩邸に逃げ込みました。私は怪我の療養のため霧島の温泉をすすめ、龍馬さんとお龍さん、そして西郷とともに鹿児島に向かいました。

龍馬さんとお龍さんは鹿児島城下に滞在後、日当山や塩浸など霧島方面の温泉で療養しながら、犬飼の滝や高千穂峰を訪問。高千穂峰では天の逆鋒を引き抜いたり、スケッチをしたりして楽しんでいました。この当時、西欧諸国では夫婦になった二人が旅行に行く習慣があったようですが、龍馬さん夫婦はまさにそれをしたといえるでしょう。

〈慶応二年夏から冬〉薩長同盟の効果

龍馬さんは鹿児島から帰るとすぐに、長州藩の手助けに向かいます。幕府を中心とした軍勢が各方面から長州藩に攻撃を始めたからです。圧倒的な人数で攻める幕府軍に対し、長州は薩摩藩を通じて手に入れた最新式の兵器で対抗し、各地で勝利を収めます。龍馬さんも薩摩藩名義で購入した軍艦ユニオン号に乗って小倉攻めに協力。この戦いでも勝利した長州藩に対し、幕府は將軍の病死などを理由に停戦を申し出るようになります。この戦いは、薩長が軍事的に幕府を圧倒したことを示すものとなったのです。

ただ、私たちは強さだけではなく、豊かさも求めていました。長州藩の桂小五郎さん、高杉晋作さんや我が藩の五代友厚などは、両藩で協力して交易を行う商社の結成を計画。これは、

長崎で海外貿易を独占している幕府に対抗する意味もありました。両藩を中心に強く豊かな国を築く土台が、ここに生まれたのです。

〈慶応三年秋〉薩長が築いた新時代

同盟から一年。十五代將軍に就任した徳川慶喜公と、島津久光公をはじめとする有力な藩の代表者を集めた会議が開かれました。後に四侯会議と呼ばれた会議で、長州藩の赦免と異国への開港をめぐる問題について話し合われましたが、慶喜公は悪化する幕府の政治体制を立て直すことに必死で、私たちがとの間にある溝を埋めようとする様子がありません。幕府中心の政治体制にもはや限界が来ていると感じた私たちは、新たな政治体制を

築くことを目指しました。

薩長が強力な武力を背景に威圧をかける中、土佐藩は幕府に、国の政治権限を朝廷に返還することを提案。慶喜公もこれに同意しました。この大政奉還は龍馬さんや私が描く、強く豊かな国づくりを平和的に進めるための最善策だったと自負しています。

新しい時代への道は開けました。これから始まるのは日本国の政治。日本国の民が丸となって、欧米に負けない、強く豊かな国づくりに挑むのです。そしてその土台を作ったのは、敵対していた薩長両藩の劇的な同盟だったと私は思っています。

これからの日本が、異国と対等に渡り合い、皆が豊かに暮らせる国へと育つことを願います。【おわり】